

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

永代供養型樹木自然葬墓地「大樹苑」について

令和2年

仁叟寺年間行事予定

- 1/1～1/3年頭祈禱・年賀受
 1/4～1/7 年始挨拶
 1/10 年賀寺例
 2/3 大節分会
 2/15 釈尊涅槃会
 3/8 大般若会/大施食会
 春彼岸会 筆供養法要
 3/17～3/23 春季彼岸会
 4/8 釈尊降誕会(花祭り)
 7/13～7/16 新暦盂蘭盆会
 京浜地区檀信徒棚経
 7月下旬(一泊二日)
 第39回子供禪の集い(中止)
 8/10 中元寺例
 8/13～8/16 盂蘭盆会
 9/19～9/25 秋季彼岸会
 10/25 檀信徒研修旅行
 12/8 釈尊成道会
 12/10 歳暮寺例
 12/31 除夜会

- ※毎週水曜日 定例坐禅会
 ※隔週水曜日 梅花講稽古
 ※隔週金曜日 華道教室
 ※毎月最終土曜日 ヨガ教室

※新型コロナウイルスによる感染症拡大防止及び社会情勢を鑑みて、行事の変更がありますこと、ご了承ください。



五輪桜満開・整備された「大樹苑」風景

ではありましたが、現在まで順調に分譲がなされております。

昨今、予想を遥かに超える少子高齢化、核家族化、後継者の不在等による時代の潮流の中、墓地継承や葬送の形も大きく変化しております。供養のかたちも多様化する中、仁叟寺ではその思いに寄り添い、様々な要望に対応する寺として、受け入れを進めています。

供養や葬送等でお困りの方がおられましたらご紹介賜り、また同苑に興味関心のある方は、遠慮なく現地でご覧いただければ幸いです。その際には、現地常駐している担当者に仁叟寺の紹介と仰っていただければ、円滑に進むことができます。

また小斎場兼研修会館「鳳寿堂」では、家族葬親族葬など小規模葬送に対応しております。寺院で葬儀が執行出来ますので、お問い合わせ下さい。



「鳳寿堂」内部



「大樹苑」東屋より本堂を望む

今春3月中旬、新たなお墓の形に対応した永代供養型樹木葬自然葬墓地「大樹苑」が、高崎市保存樹「五輪桜」及び高崎市指定天然記念物「モクの木」周辺が整備され、開苑いたしました。ちょうど新型コロナウイルス禍という状況

仁叟寺末寺、八東山観音寺より石尊像御移転

仁叟寺八世天威大祐大和尚が、寛永年間（1624～44）に開いた八東山観音寺は、廃寺となり、その跡地は八東地区（行政区は神保地区飛び地）に残っております。寺歴は古く、寺伝によると羊太夫生誕を祝し、持統9年（695）に開創。寺名のとおり、観音像が祀られていて、本尊様である羊太夫護持仏の千手観世音菩薩像、ほか七観音は、廃寺前の明治10年（1877）に、本寺である仁叟寺に移転しました。現在千手観音ほか七観音は前立仏を含め全てが高崎市の重要文化財に、また上州三十三観音、南毛三十三観音、旧坂東三郡三十三観音等各霊場に指定され、お詣りや御朱印を求めに参られる方が多く来られます。明治17年（1884）に、八東観音寺は火災に遭い、堂宇悉く灰燼に帰し、現在は寺の石垣と歴代住職墓地が、当時の様相を伝えております。

その八東観音寺跡地より、元禄年間の石仏及び石殿等が土地所有者である八東地区小澤家一族の願いもあり、6月に御移転が完了いたしました。14日には移転開眼会法要が修行され、当山に伝わる他の石仏と共に新たに覆堂を設け、お祀りし、後世に伝えます。



八東観音寺跡地に
建立された石碑



新たに造立された覆堂と石仏群

もみじ山環境整備報告

高崎市の里山元気再生事業が満期終了となり、昨年より仁叟寺が中心となって行っておりますもみじ山の里山再生。古墳が多く遺されている歴史豊かな仁叟寺もみじ山の再生も、檀信徒役員ほか関係各位のご理解ご協力を賜り、順調に進んでおります。

5月24日に、当山総代人を中心とした皆様方にご協力をいただき、本年第1回目のおてんま作業を行いました。本年は7月26日（第2回目）、9月6日（第3回目）と継続して作業を予定しておりますので、総代人世話人各位には、引き続きご協力をお願い申し上げます。

もみじも植樹して7年が経過し、毎秋綺麗な彩を添えるようになりました。またもみじ山も、小沢昇様が中心となり山野草や福寿草の植栽を行っております。現在までに福寿草1,000株、カタクリ200株、紫蘭600株、雪割草50株他多数が植栽されたほか、当地に生息する珍しい山野草も発見され、「山野草の道」と称した小径も整備が進んでおります。心に安寧とやすらぎを与える花々が、一年を通して楽しめるよう、環境護持をこれからも図っていきます。



整備が進む「山野草の道」



もみじ山に根付いた紫蘭



龍源寺境内地及び墓地、人災被害について

当被害が3月22日放送、全国ネットTBS系テレビ放送「噂の東京マガジン」で取り上げられ、大きな反響がありました。現在係争中案件であります。雑誌、新聞などの各方面のマスコミ関連取材を受けており、機を諮って広報されると同っております。被告側は取材拒否、又は弁護士の回答を待機している状況であります。



3/22放送 TBS系テレビ「噂の東京マガジン」



ほか、羽切吉胤氏所有の原因
地となった場所

に産廃を投棄していた業者は、多野造園土木株式会社だけではない
事実が判明いたしました。数社の造園業者も関わり投棄をしており、謝礼を地主である羽切吉胤氏に支払ったことも判りました。

また境内地に流入した産廃の撤去につきまして、1月上旬に高崎市役所環境部が「全量撤去」の行政指導を多野造園に出しました。信仰の聖域である蚕影山跡地を、行政指導が出るまで4ヶ月以上も産廃に埋もれたまま放置しており、ようやく産廃が撤去されるものと思っておりましたが、倒木や土砂等の撤去がなされておらず、再度撤去指導がなされました。立ち合いの席で撤去を約束いたしました。後になり撤去はしないと多野造園代表田中広幸氏が述べ、現在もそのままの状態に放置され、大変危険な状況です。

また残念ではありますが、蚕影山様跡地前の江戸時代の古木で多胡早生の原種と伝わる「多胡大桑」は産廃流入により、無くなった事を確認いたしました。早期の復旧を願っています。

文化時報記事 (4/11付)

境内環境整備報告 ～三波石ほか銘石御寄進～

当山境内には、神流町東福寺様、酒井商事様、高崎市高橋貞夫様より寄進された三波石、天竜石、北海道赤石等の銘石が花を添えております。この度、縁ありまして三波石の本場である神流町の龍松寺様、タムラ造園土木様より万場塩沢産の銘石を三基、ご寄進を賜りました。本堂前等の境内地に安置させていただき、お詣りに来られた方々の目を楽しませてくれるものと思っております。

また、故折茂洋明様、多胡石材産業株式会社様よりも銘石の寄進をいただきました。境内環境に更なる彩を与えてくださり、感謝しております。



山門脇に安置した三波石



本堂前に安置した三波石

新型コロナウイルス感染症に対しての報告

新型コロナウイルスによる感染症拡大により、4月から5月に掛けて日本全土に緊急事態宣言が発令されました。老若男女問わず日常の生活がままならない状況であること、拝察申し上げます。また、我が国のみならず、現在世界中に於いて感染症が拡大し、猛威を振るっています。当山に於きましても、下記のとおり対策を講じさせていただいております。

①本堂、欣光閣、坐禅堂、水屋に除菌消毒アルコール液を設置

②手洗い、マスク着用の推進

③大般若会落語会、4月仁叟寺ヨガ、第39回子供禅の集いを中止

本年度で39回目となる仁叟寺子供禅の集いは、感染拡大防止は勿論、夏休み期間が未定であり、日程を組む事が出来ず、本年は残念ながら中止といたします。なお仁叟寺ヨガ教室は、しっかりと対策を施し、5月以降通常どおり活動しております。

④次亜塩素酸空間除菌噴霧機及び空気清浄機を欣光閣に設置

⑤ご供養についての対策

規模縮小（例えばご家族のみなど）でご法要を執行される方が多いです。法要前に除菌消毒剤使用とマスクの着用を推進、本堂は換気につとめ、椅子席の距離を広げております。

⑥新型コロナウイルス禍終息鎮静化祈念法要



大施食会法要に併せ勤めました。ほか5月には全日本仏教会などの呼び掛けに賛同し、追悼及び医療従事者に感謝、コロナ禍終息に向けて希望を込め、当山大梵鐘を撞きました。

以上、当山の主な対策を報告致しました。新型コロナウイルス禍の早期の終息鎮静化を祈念申し上げます。

「命の鐘アクション～鐘に願いを込めて～」(5/24)



次亜塩素酸空間除菌噴霧機



奉納された手作り布マスク
姿の仁叟寺六地藏菩薩尊像

行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

新型コロナウイルスによる様々な影響は我が国のみならず世界へ広まっております。当山も大きな影響がありましたが、明けない夜はないという言葉のとおり、今出来ることをしっかりと考え、前へ前へ歩ませていただいております。

私事ですが、今年4月より子供の通う地元多胡小学校のPTA会長を拝命いたしました。現在こちらにも新型コロナウイルス禍により、大変な状況であります。さて、多胡小学校は江戸時代の仁叟寺寺子屋より興り明治時代に学校令が出され創られた神保小学校が前身であり、初代校長は二十六世機參學禪大和尚です。数年後は開校150年を迎えます。母校であり、歴史と伝統ある当校の為に、精進をさせていただきます。合掌（龍）



寺子屋・神保小学校で使用されたと伝わる机（仁叟寺蔵）